

「令和4年度 第1回県政モニターアンケート調査」 調査結果(概要)

県政運営の参考とするため、下記のとおり県政モニターアンケート調査を行いました。

1 調査方法

- (1) 調査地域 : 長野県全域
(2) 調査対象 : 県政モニター(県内在住の18歳以上の男女)
(県政モニター総数1,248人/任期:R2.8.1~R5.7.31)
(3) 調査方法 : 郵送又はインターネット
(4) 調査期間 : 令和4年5月31日(火)~令和4年6月14日(火)

2 調査の目的・内容

次の5項目について18問を設定

- (1) 運動・スポーツに関する実感について
(2) 文化芸術活動に関する実感について
(3) 長野県の森林・林業について
(4) 健康づくりについて
(5) 消費生活に関する意識について

3 回答状況

回答者数 862人 (回収率 69.1%)

回答者の内訳

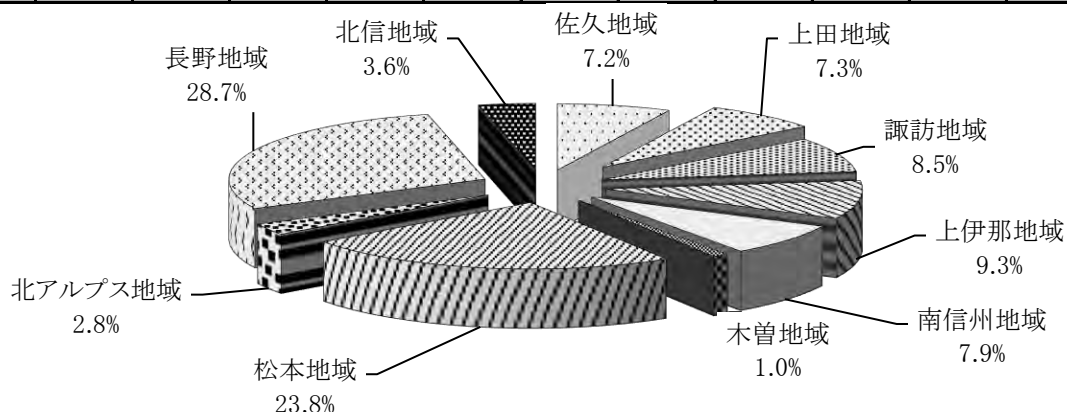
【男女別と年代別】

	総数	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
総数	862人	-	14人	58人	113人	159人	223人	295人
	100.0%	-	1.6%	6.7%	13.1%	18.4%	25.9%	34.2%
男性	446人	-	5人	26人	40人	76人	126人	173人
	51.7%	-	0.6%	3.0%	4.6%	8.8%	14.6%	20.1%
女性	416人	-	9人	32人	73人	83人	97人	122人
	48.3%	-	1.0%	3.7%	8.5%	9.6%	11.3%	14.2%

※ 割合(%)はすべて、総数(n=862)に対する割合

【地域別】

	総数	佐久	上田	諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	北アルプス	長野	北信
回答者数	862人	62人	63人	73人	80人	68人	9人	205人	24人	247人	31人
	100.0%	7.2%	7.3%	8.5%	9.3%	7.9%	1.0%	23.8%	2.8%	28.7%	3.6%



1 運動・スポーツに関する実感について

※()内数値は、令和2年度第2回県政モニターアンケート調査数値

問1 この1年間に行った運動・スポーツの種類

■「ウォーキング」が約7割、「体操」が3割超

①ウォーキング（散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	68.8 %	(67.2 %)
②体操（ラジオ体操、ご当地オリジナル体操、職場体操など）	33.5 %	(34.3 %)
③トレーニング（筋肉トレーニング、トレッドミルなど）	20.0 %	(20.6 %)
		ほか（複数回答）

問2 この1年間に運動・スポーツを行った日数

■週1日以上行っている人が約6割

①ほとんど毎日	17.7 %	(14.2 %)	⑤3カ月に1～2日	5.7 %	(5.2 %)
②週に3～4日	20.5 %	(18.9 %)	⑥年に1～3日	3.4 %	(4.7 %)
③週に1～2日	22.6 %	(24.2 %)	⑦わからない	0.6 %	(1.5 %)
④月に1～3日	14.4 %	(19.3 %)	⑧無回答	0.7 %	(1.4 %)
					(単数回答)

問3 この1年間に運動・スポーツを行った理由

■「健康のため」が6割超、「体力増進・維持のため」が4割超、「運動不足を感じるから」が約4割

①健康のため	65.2 %	(59.9 %)
②体力増進・維持のため	42.8 %	(38.8 %)
③運動不足を感じるから	40.3 %	(41.3 %)
		ほか（複数回答）

(問1で②（この1年間に運動・スポーツはしなかった）または問2で④～⑦を回答した方）

問4 この1年間に行った運動・スポーツを週に1日以上できなかった理由

■「仕事や家事が忙しいから」が5割超、「面倒くさいから」・「生活や仕事で体を動かしているから」が約2割

①仕事や家事が忙しいから	52.6 %	(85.6 %)
②面倒くさいから	19.3 %	(38.0 %)
③生活や仕事で体を動かしているから	19.3 %	(34.3 %)
		ほか（複数回答）

問5 運動・スポーツをする以外の関わり方

■「テレビ等により日常的にスポーツ中継やスポーツ情報に接している」が約4割、「競技場等に出掛けて、スポーツを観戦している」が約1割

①テレビ等により日常的にスポーツ中継やスポーツ情報に接している	38.7 %	(33.2 %)
②競技場等に出掛けて、スポーツを観戦している	8.0 %	(7.7 %)
③地域の運動・スポーツ活動の運営に携わっている	4.6 %	(5.8 %)
		ほか（複数回答）

2 文化芸術活動に関する実感について

※()内は令和2年度第2回県政モニターアンケート調査数値

問6-1 この1年間に行った文化芸術活動(自ら創作・参加)

■「音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)」、「写真」が約1割、「行わなかった」は6割超

①音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)	11.3 %
②写真	9.3 %
③映画・漫画・アニメ	6.8 %
④美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)	6.7 %
⑤生活文化(書道、華道、茶道など)	5.5 %
⑥行わなかった	64.0 %
	ほか(複数回答)

問6-2 この1年間に行った文化芸術活動(鑑賞)

■「映画・漫画・アニメ」が約4割、「音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)」及び「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)」が3割超

①映画・漫画・アニメ	41.5 %
②音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、演歌など)	33.3 %
③美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)	32.7 %
④写真	14.0 %
⑤文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	10.6 %
⑥行わなかった	26.5 %
	ほか(複数回答)

問7 住んでいる地域の文化的環境の満足度

■「満足している」と「どちらかといえば満足している」が合わせて約4割

①満足している	5.2 % (4.2 %)
②どちらかといえば満足している	36.5 % (32.9 %)
③どちらかといえば満足していない	23.7 % (27.4 %)
④満足していない	11.6 % (14.3 %)
⑤わからない	22.2 % (16.7 %)
⑥無回答	0.8 % (4.5 %)
	(単数回答)

問8 地域の文化的環境の充実に必要な事項

■「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」及び「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が約4割

①公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実	40.7 % (39.5 %)
②子どもが文化芸術に親しむ機会の充実	39.8 % (51.3 %)
③地域の芸能や祭りなどの継承・保存	34.1 % (39.8 %)
④歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進	28.2 % (34.2 %)
⑤ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実	26.5 % (24.1 %)
	ほか(複数回答)

3 長野県の森林・林業について

問9 普段の暮らしの中で森林や木を身近に感じるとき

■「森林の美しい景観を見たとき」が8割超

①森林の美しい景観を見たとき	85.6 %
②山菜やきのこなどを採りに山に入ったときや、それらを食べたとき	47.9 %
③キャンプや登山・森林浴など森林に囲まれながら野外活動をしているとき	37.6 %
④住宅や施設に木材が使われているところを見たとき	36.5 %
⑤木材を使った日用品や家具などを使用したとき	28.7 %
	ほか（複数回答）

問10 森林が持つ機能の中で期待するもの

■「山崩れや土砂の流出を防ぐなど県土を保全する機能」が8割超

①山崩れや土砂の流出を防ぐなど県土を保全する機能	82.8 %
②水を貯え、洪水や渇水を緩和するなど水源をかん養する機能	74.6 %
③二酸化炭素を吸収・固定するなど地球の温暖化を防止する機能	67.1 %
④適度な温度の維持。多様な生き物の生育・育成など生活環境や自然環境を守る機能	65.2 %
⑤木材等の林産物を供給する機能	35.4 %
	ほか（複数回答）

問11 森林の機能を適切に維持していくために必要なこと

■「樹木の一部を伐採（間引き）し、必要な手入れを進めること」が約8割

①樹木の一部を伐採（間引き）し、必要な手入れを進めること	78.9 %
②森林・林業を担う人材の確保・育成を図ること	77.6 %
③木材資源の循環利用を進めること	58.9 %
④幼少期から森林に関する教育を進めること	41.4 %
⑤木材を住宅や日用品など生活の中に取り入れること	34.6 %
	ほか（複数回答）

4 健康づくりについて

()内数値は、令和2年度第2回県政モニターアンケート調査数値

問12 自分の健康状態をどのように感じているか

■ 自分の健康状態を「よい」、「まあよい」と感じている人は、合わせて約8割

① 「よい」と感じている	12.4 %	(15.6 %)
② 「まあよい」と感じている	65.3 %	(65.3 %)
③ 「あまりよくない」と感じている	20.8 %	(16.8 %)
④ 「よくない」と感じている	1.4 %	(2.0 %)

(単数回答)

問13-1 健康の維持・増進に関して取り組んでいることについて

■ 「健康診断受診に関すること」の「取り組んでいる」、「少し取り組んでいる」を合わせた割合が約9割

各項目ともに、「取り組んでいる」、「少し取り組んでいる」を合わせた割合

① 運動に関すること	72.7 %	(67.4 %)
② 食生活に関すること	85.2 %	(86.0 %)
③ 生活リズムに関すること	81.5 %	(79.9 %)
④ 飲酒に関すること	83.9 %	(77.7 %)
⑤ 健康診断受診に関すること	88.4 %	(83.9 %)

(①から⑤に対してそれぞれ単数回答)

(問13-1で1項目でも「あまり取り組んでいない」か「全く取り組んでいない」を回答した方)

問13-2 健康の維持や増進に関することに取り組まない理由

■ 「時間がない・忙しい」が3割超、「面倒くさい」、「そのような気持ちがない」が2割超

① 時間がない・忙しい	33.2 %	(35.7 %)
② 面倒くさい	23.8 %	(26.8 %)
③ そのような気持ちがない	23.8 %	(26.8 %)

ほか(複数回答)

問14 健康づくりを進める上で必要な環境づくり

■ 「ウォーキングコースや歩道の整備」が約5割、「新聞やテレビ等メディアからの健康づくりに関する情報の充実」や、「家庭における健康づくりに関する取組の支援」が2割超

① ウォーキングコースや歩道の整備	50.5 %	(49.3 %)
② 新聞やテレビ等メディアからの健康づくりに関する情報の充実	24.1 %	(30.7 %)
③ 家庭における健康づくりに関する取組の支援	22.6 %	(-)
④ 健康づくりに関するイベントの開催	21.1 %	(26.2 %)
⑤ 健康に配慮した弁当や総菜等を販売する店舗の充実	20.5 %	(25.7 %)

ほか(複数回答)

問15 コロナ禍での体調変化

■ コロナ禍の体調変化で、「変わらない」が8割超

① 「よくなった」と感じている	3.8 %	(3.8 %)
② 「変わらない」と感じている	84.1 %	(82.8 %)
③ 「悪くなった」と感じている	11.1 %	(12.4 %)

(単数回答)

5 消費生活に関する意識について

問16 エシカル消費の認知度

■ 「知らない」が5割超、「聞いたことがある」が約3割、「意味を知っている」が約1割

①知らない	56.8 %
②聞いたことがある	29.8 %
③意味を知っている	12.8 %
④無回答	0.6 %

(単数回答)

問17 エシカル消費の実践状況

■ 「地元産や伝統工芸品を選んだり、また地元商店で買い物をする」、「値段の安さだけでなく、長く使えるか、本当に必要かを重要視する」を約6割が実践している。

①地元産や伝統工芸品を選んだり、また地元商店で買い物をする	58.2 %
②値段の安さだけでなく、長く使えるか、本当に必要かを重要視する	57.4 %
③同じ商品なら賞味（消費）期限が近付いているものから選ぶ	30.3 %
④リサイクル商品、またリサイクル可能な商品を選ぶ	27.3 %
⑤災害被災地や風評被害にあっている地域の商品を選ぶ	20.0 %

(複数回答)

問18 エシカル消費の促進に向けて必要な取組

■ 「何がエシカルな商品であるかが分かりやすいこと」が約7割、「エシカルな商品を扱う店舗が増えること」が約5割

①何がエシカルな商品であるかが分かりやすいこと	70.2 %
②エシカルな商品を扱う店舗が増えること	49.8 %
③エシカルな商品がより求めやすい価格になること	46.3 %
④エシカルな商品がどこで買えるか分かること	45.0 %
⑤エシカルな商品の種類が増えること	35.4 %

(複数回答)

調査結果を踏まえた今後の対応

1 運動・スポーツに関する実感について

(問い合わせ先：教育委員会事務局スポーツ課 電話 026-235-7449)

(問1) この1年間に行った運動・スポーツの種類

結果の分析

「ウォーキング」が68.8%と最も高く、次いで「体操」(33.5%)、「トレーニング」(20.0%)となっており、上位3項目は前回調査(令和3年2月実施。以下同様)と同様の順位である。自分の生活リズムに合わせて身近で手軽にできる運動・スポーツが人気の傾向。一方、「運動やスポーツはしなかった」は14.4%で、コロナ禍の影響を受け昨年の12%から2.4%増加した。

(問2) この1年間に運動・スポーツを行った日数

結果の分析

「週1日以上実施」に該当する「ほとんど毎日」(17.7%)、「週に3～4日」(20.5%)、「週に1～2日」(22.6%)を合わせて60.8%となり、昨年の57.3%を上回り、初めて60%を超えた。年代別では、70歳以上が71.2%(前回62.2%)と最も高く、30歳代が39.6%と最も低くなっている(前回調査と同様に70歳代が最も高かった)。また、男女別では、男性が61.7%、女性が60.1%で前回同様に男性が上回った。男性は2%、女性は5.6%増加した。

(問3) この1年間に運動・スポーツを行った理由

結果の分析

「健康のため」が65.2%と最も高く(前回調査より5.3%増加)、次に「体力増進・維持のため」(42.8%)、「運動不足を感じるから」(40.3%)、「楽しみ、気晴らしとして」(40.0%)となっている。昨年に引き続き、健康の保持増進・気分転換に関する理由が上位を占めている。40%以上の上位4項目は、前回調査と順位に変動はあるが、傾向は同様である。

(問4) この1年間に行った運動・スポーツを週に1日以上できなかった理由

結果の分析

「仕事や家事が忙しいから」が52.6%と最も高く、次に「面倒くさいから」19.3%、「生活や仕事で体を動かしているから」が19.3%となっている。前回調査と比較し、上位3項目の順位に変動はない。「仕事や家事が忙しいから」・「生活や仕事で体を動かしているから」の割合の減少は、コロナ禍もあり、家で過ごす時間の増加が原因の一つとして考えられる。

(問5) 運動・スポーツをする以外の関わり方

結果の分析

「テレビ等により日常的にスポーツ中継、スポーツ情報に接している」が38.7%と前年より5.5%増加で最も高く、次に「競技場等に出掛け、スポーツを観戦する」8.0%(前回7.7%)、「地域の運動・スポーツ活動の運営に携わっている」4.6%(前回5.8%)となっている。前回調査と比較すると、コロナ禍の影響で外出を控えテレビ等での観戦やスポーツイベントの増加・観戦緩和により、運動・スポーツを「みる」関わり方は増加している。また、「各種運動・スポーツ行事、大会、教室等へボランティアとして参加している」は4.2%で、運動・スポーツを「ささえる」関わり方は前回調査4.4%から減少した。

今後の対応

2028年本県開催予定の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けて、様々な形でのスポーツ参画の機運向上を図り、スポーツの楽しさや感動をより多くの県民が享受でき、だれもが利用しやすい施設の整備を推進していく。また、コロナ禍の影響によりスポーツに親しむ機会が減少する中、先端技術(リモート等)を活用したスポーツ機会の提供等新たな生活様式に対応したスポーツ活動の継続に向けた取組や市町村、県スポーツ協会・県スポーツ推進委員協議会等への支援・連携を通して、スポーツ活動全体の活性化を図り、個々の関心や適性等に応じて、「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツができる環境づくりを推進していく。

調査結果を踏まえた今後の対応

2 文化芸術活動に関する実感について

(問い合わせ先：文化政策課 電話 026-235-7282)

(問6-1) この1年間に行った文化芸術活動(自ら創作・参加)

結果の分析

自ら創作・参加した文化芸術活動については、前回調査と同様に「音楽」(11.3%)、「写真」(9.3%)が上位の項目であり、自ら創作・参加しやすい活動として定着している。

一方、「行わなかった」は64%となっている。

(問6-2) この1年間に行った文化芸術活動(鑑賞)

結果の分析

鑑賞活動については、前回調査と同様に「映画・漫画・アニメ」(41.5%)、「音楽」(33.3%)、「美術」(32.7%)が上位の項目であり、鑑賞しやすい活動として定着している。

一方、「行わなかった」が26.5%となっている。

(問7) 住んでいる地域の文化的環境に関する満足度

結果の分析

前回調査と同様に「どちらかといえば満足している」が36.5%と最多であった。前回調査と比較すると、「満足」が1.0ポイント上昇、「どちらかといえば満足している」が3.6ポイント上昇、「どちらかといえば満足していない」が3.7ポイント減少、「満足していない」が2.7ポイント減少していることから、地域の文化的環境に関する満足度が向上していることが伺える。

(問8) 地域の文化的環境の充実に必要な事項

結果の分析

昨年度調査と同様に「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」(40.7%)、「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」(39.8%)、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」(34.1%)が上位の項目となっている一方、「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」は前回調査から11.5ポイント減少している。

今後の対応

過去1年間に文化芸術の鑑賞を行った人は約7割となっており、コロナ禍においても、オンライン等も活用しながら鑑賞活動が行われたことが伺える。一方、自ら創作・参加する文化芸術活動を行なった人は3割超であったことから、更なる参加機会の拡充に努めていく。

調査結果を踏まえた今後の対応

3 長野県の森林・林業について

(問い合わせ先：森林政策課 電話 026-235-7261)

(問9) 普段の暮らしの中で森林や木を身近に感じるとき

結果の分析

「森林の美しい景観を見たとき」が8割超となり、他の選択肢を大きく引き離れた。「山菜やきのこなどを採りに山に入ったときや、それらを食べたとき」や「キャンプや登山・森林浴など森林に囲まれながら野外活動をしているとき」といった実際に山や森林に出向き、体験する活動や、「住宅や施設に木材が使われているところを見たとき」や「木材を使った日用品や家具などを使用したとき」といった木材を見たり触れたりする行動は、いずれも「森林の美しい景観を見たとき」と比べて低位にとどまる。

森林が持つ様々な機能への理解を深めるきっかけとして、森林や木を身近に感じられることは大切であると考えられることから、森林に触れ合う機会を創出する取組や住宅や施設への木材の活用や日用品での木材の利用を促進するなど、様々なシーンで森林や木を身近に感じられる機会の創出が必要である。

(問10) 森林が持つ機能の中で期待するもの

結果の分析

「山崩れや土砂の流出を防ぐなど県土を保全する機能」が8割超となった。その他の期待する機能としては、「水を貯え、洪水や渇水を緩和するなど水源をかん養する機能」や「二酸化炭素を吸収・固定するなど地球の温暖化を防止する機能」といった、森林の多面的な機能のうち、公益的な機能が上位を占めた。

災害の発生の危険度が高い森林においては計画的に森林の整備を行い、災害に強い森林づくりを進め、県民の皆さんが安心して暮らせる県土を作っていく必要がある。

(問11) 森林の機能を適切に維持していくために必要なこと

結果の分析

「樹木の一部を伐採（間引き）し、必要な手入れを進めること」が約8割となり、続いて僅差で「森林・林業を担う人材の確保・育成を図ること」が続く結果となった。また、「木材資源の循環利用を進めること」も3番目に選択されていることから、必要な森林の手入れを進め、収穫した資源を循環させる取組と、それを担う人材の確保・育成をしっかりと行っていく必要がある。

今後の対応

調査結果を参考とし、森林が持つ機能が持続的に発揮できるよう、今年度策定する「長野県森林づくり指針」に森林づくりの方向性を明記して、県民の皆さんが森林に期待する機能がしっかりと果たすことができるよう、実効性のある取組を進めていく。

調査結果を踏まえた今後の対応

4 健康づくりについて

(問い合わせ先：健康増進課 電話 026-235-7112)

(問12) 自分の健康状態をどのように感じているか

結果を踏まえた今後の対応

自分の健康状態について、「よい」「まあよい」の回答は合わせて77.7%と、前回調査(令和3年2月実施。以下同様)に比べて3.2ポイントの減少となった。

コロナ禍の影響も踏まえ、その原因について分析する必要がある。

(問13) 健康の維持・増進に関して取り組んでいることについて

結果を踏まえた今後の対応

健康の維持・増進に向けた取組状況について、「運動」「生活リズム」「飲酒」「健康診断受診」の項目について「取り組んでいる」または「少し取り組んでいる」の数値が前回調査を上回った。「食生活」についても85.2%と、前回調査(86.0%)をわずかに下回ったものの高い数値を維持している。

ACEプロジェクトの推進により県民の取組が着実に進んでいることがうかがえるため、引き続き取組を継続していく必要がある。

(問13-2) 健康の維持や増進に関することに取り組まない理由

結果を踏まえた今後の対応

健康づくりに取り組まない理由として「時間がない・忙しい」が33.2%と最も高く、次いで「面倒くさい」、「そのような気持ちがない」がそれぞれ23.8%と、前回調査と同様の傾向となっている。

「感染症が心配で外出を控えているため」は8.0%と、前回調査の16.7%から半減していることから、感染対策を行った上で健康づくりに取り組む動きが戻りつつあると推察される。

引き続き、個人の行動変容を促す効果的な情報発信に取り組むとともに、定刻で仕事を終えるなど、余裕を持った生活を送ることができる職場・社会環境づくりといった大きな視点での取組を進める必要があると考えられる。

(問14) 健康づくりを進める上で必要な環境づくり

結果を踏まえた今後の対応

健康づくりを進める上で必要な環境づくりについて、「ウォーキングコースや歩道の整備」(50.5%)や「スポーツジム、プール等運動施設の充実」(20.1%)といったハード面の整備、「新聞やテレビ等メディアからの健康づくりに関する情報の充実」(24.1%)、「家庭における健康づくりに関する取組の支援」(22.6%)、「健康づくりに関するイベントの開催」(21.1%)といった情報発信の充実、「健康に配慮した弁当や総菜等を販売する店舗の充実」(20.5%)や「塩分や油を抑えた調味料や加工食品の種類、販売店舗の充実」(19.4%)といった食環境の整備など、多様で幅広い視点からの取組が求められている。

引き続き様々な方向、観点から県民の健康づくりを支援していく取組が必要と考えられる。

(問15) コロナ禍での体調変化

結果を踏まえた今後の対応

コロナ禍での体調変化について、「変わらない」の回答は84.1%であり、「悪くなった」(11.1%)は前回調査(12.4%)から減少したものの依然として約1割となっている。

特に女性について「悪くなった」(15.4%)の数値が前回調査(12.7%)より高くなっていることから、その原因について分析する必要がある。

調査結果を踏まえた今後の対応

5 消費生活に関する意識について

(問い合わせ先：くらし安全・消費生活課 電話 026-235-7151)

(問 16) エシカル消費の認知度

結果の分析

平成 29 年度に実施した同調査と比べて、最も多い回答である「エシカル消費を知らない」は 76.5%から 56.8%に減少し、「エシカル消費を聞いたことがある」は 18.4%から 29.8%に増加、「エシカル消費の意味を知っている」は 4.2%から 12.8%に増加しており、エシカル消費の認知度は少しずつ向上している。

(問 17) エシカル消費の実践状況

結果の分析

「地元産や伝統工芸品を選んだり、また地元商店で買い物をする」、「値段の安さだけでなく、長く使えるか、本当に必要かを重要視する」を約 6 割が実践しており、「特に実践していない」は約 1 割に留まっている。エシカル消費の認知度に関わらず、多くの県民が何かしらのエシカル消費を実践している。

(問 18) エシカル消費の促進に向けて必要な取組

結果の分析

「何がエシカル商品であるかが分かりやすいこと」が約 7 割と最も多く、次いで「エシカルな商品を扱う店舗が増えること」、「エシカルな商品がより求めやすい価格になること」、「エシカルな商品がどこで買えるか分かること」が 5 割前後となっている。

今後の対応

「エシカル消費」という言葉も、少しずつだが、前回調査よりも浸透してきたことが判明した。「何がエシカル商品であるかが分かりやすいこと」を望む声が約 7 割あることから、単に「エシカル消費」という言葉を知ってもらっただけではなく、商品の背景にあるストーリーを理解し、買い物を通じてエシカル消費を実践してもらうような情報提供を事業者とともに進める。

引き続き、県政出前講座、長野県消費者大学の講座や事業者との連携等により県民の皆様が直接エシカル消費を学び、実践する機会を増やすように努める。

また、第 3 次消費生活基本計画の策定においては、今回の調査を踏まえ、エシカルな商品の情報提供など、エシカル消費の実践につながる施策を盛り込むよう検討する。